

行動巡視

起案罫紙

大正二年八月一日 起案者 藤田

藤田

八月十四日

發付係 藤田

發付後起 案者捺印

(主裁)

軍務局長

局長

藤田

大臣 鹿

副官

次官 相

參事官

人事局長

經理局長

教育本部長

軍務本部長

第一部長

第二部長

會計課

第一班

先

五

大正二年八月一日

藤田

馬鉄第一四九子

藤田 船出動件認許

軍令	水路	陸建	教育	警政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
			八ノ六			ハノ五		ハノ八			受月日
											發月日

番 官房第二〇八六號

官房接受

2.8.0

1443



軍務局



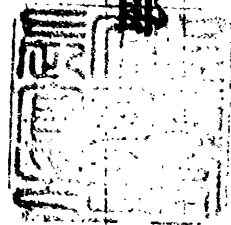
卯月 卯月  
長月 菊月  
約一箇月

二四九ノ四

大正二年七月廿四日

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎

海軍大臣 野澤 實毅



吳七駆逐隊行動役務ノ件

今般教育本部長ト協議ノ上運田術學生

教程トシテ吳七駆逐隊(水無目着日缺)ニ於テ

寧地ノ業修習為致度候條吳二隊俾駆逐

艦出動ノ義御義認ヲ得度尚本件ニ附帶

レ同駆逐隊ヲシテ練習ノ事ニ關シテハ運田術練

習艦三〇廿六艦長ノ指揮ヲ受ケレメラルル保併セ

言房第二〇廿六艦

御註議相改度

右 上 申 不

追々之ニ要スル行動需品迄航海加俸等  
總テ配付豫算額内處辦致度此旨  
易 申 不

子

海 軍

1446



第一部長

第一部長

部員



2. 8. 1

案

大正二年七月廿一日

教育本部長

高等教第九號運用術學生驅逐艦於實習件認許不

の事

司員

校

原校

教本第九號

1447

心許入

2. 8. 1

1447

本認許... 吳鎮守府司令長官ヨリ別提出ノ駆逐隊  
出勤... 上申認許ヲ待リテ發布ノ豫定

教育本部

1448

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

海軍本部

第一部長

吉川元八納

海軍第九一號

大正三年七月二十六日於吳

七月十八日經由

富士艦長原靜吾

海軍教育本部長吉松茂太郎殿

運用術學生駆逐艦三隻實習ノ件

運用術學生ヲシテ吳鎮守府所屬駆逐艦(三隻以上)ニ於テ  
約一週間間左記作業實習為致度候條御認許相成度

右申上ス

修習事項 艦船操縦法

(終)

教本第 七 號

海 軍



軍務

軍務第一七三號

軍務局長

局員

馬長

海軍

九月十九日

号陸海軍部長

第七号陸海軍部長

右件簡号陸海軍第一二四九号の白書を以て

上申書中陸海軍之事に關するに軍用湖路

の延長に關し陸海軍部長の指揮に受けるに

申すに陸海軍部長の指揮に受けるに

統制範圍内を以て陸海軍部長の指揮に

軍の本部に於て陸海軍部長の指揮に

右様ゆえに第一七三號を以て念中進出

八月の發行濟

1451

行部

電

九月

軍第二二二號

三

軍務局長

局長

印

藤田

大正二年八月廿一日

軍務局長

出下第... 杉島... 乾平...

右件... 申傳... 因先... 海方... 山... 卜...

右申様ス

八月六日起 發行濟

1452

起案罪紙

大正二年七月廿

日起案  
起案者  
印

藤田

八月六日發付

發付係  
捺印

發付後起  
案者捺印

(主務)

軍務局長

印

印

印

藤田

印

印

大臣

陸

副官

次官

印

參事官

印

印

印

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
											受月日
											發日

1453

號番

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten notes and signatures in vertical columns, including dates like '大正二年七月' and '大正二年八月'.

Main body of the document with faint, mostly illegible text.

18841



電

軍務局

山第ニナ三第

大正三年七月二十日

宮城縣知事森

正隆



海軍大臣男爵齋藤實殿

与



日本三景ノ一タル松島ヲ公園ニ編入レ内カ多敷ノ人  
士ヲ招致スル目的ヲ以テ明治四十二年五月十四日  
迄ニ至ル五箇年ノ發達事業トシテ經費四拾餘萬  
圓ヲ投シ之ヲ經營スル為メコレト決シ着工ノ計ナリ申  
上ルニ至リテ一節タル縣政ニハ一ホテモ其ノ未發切  
ニ付其際ニ梓トシカニ二十三年五月、之ヲ分給シ五銀  
萬圓ヲ以テ之ヲ可催、且込リ以テ目下更ニ其

七月廿日  
森 正隆



軍務局長



軍

七月二十九日

野村統言書

横濱代官

面会大関係

鎌守府中

送ハトスルニ依

業及教育作

業、関係ニテ

ハ故書成否、

分ラテハ旨回

答シ置キス

由ナリ

宮崎島多子代理トシテ令外技師奉り出首禮ヲ請ル中ノ  
松島公園ノ可也成ニテ手配ヲ回航セシメテ互件ニ付テ陳述ス  
ル処アリタリ

其要、松島公園ノ修費四十万ガ年計畫ヲ以テせん  
明治四十二年起ニ今ヤ工程半ビテ達シテトシテモ、東、東精養  
軒ヲテテ経営口トシテ最早ノ事業ヲ得ルハ、陳述ニシテ本年  
九月二十三日ヨリ三日(秋季皇慶祭一)日、五場式ヲ行ヒトス  
モ、在、東北ハ、修リ集ルニ民衆二十万ト達スベシ、東京、及  
以テ神ノ新リ祀者教十名ヲ推挙シ、其、素合ノ案ナレド  
何事、西事、思想、通達、ハ、カ、方、請、願、御、用、願、リ

本件平古の核張る局長より思存了ス





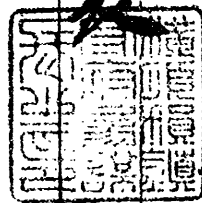
軍務局

局員

横領第一五三番

大正三年十月

上村松太郎守林野澤  
野河川渡軍者軍務局長殿



宮殿陛下へ軍務派遣  
方之閣下軍務第二二二  
令。趣領義兵之閣下  
省法守部三控戸底  
事。於中。貴付夫々  
業。義。修理。却令上  
道。當。

第二二二

號

毎

1459

2.8.4









起案野紙

大正二年九月四日

日起案  
起案者  
捺印

藤田

九月

五日發付  
發付係  
捺印

發付後起  
案者捺印

(主任)

總務局長  
藤田

藤田

藤田

大臣

次官

次官

參事官

副官

藤田

藤田

藤田

藤田

局、部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	教育	臨建	水路	軍令
受月日											
發月日											

號番

大正二年九月五日  
軍艦團形方受る電  
官房接受

領之候處九十月旬軍船ハ射擊共也  
 及演習等ノ為ニ行事多ク極ク下意  
 隆カキ希望ノ名ニ難シ候条大由  
 左舞鶴鎮守府ノ於テ所管邊郡船  
 故ノ要望ニ對シ相考慮給仕候事ト  
 存下云々

海軍

3

1466 1465





(電報譯用紙)

海軍

大正二年

九月

三

日午六時

五十分

海軍

局發

發信者

發信者

藤田 山崎

受信者

了

海軍大臣 閣下 敬啟者 茲因 國民政府 成立 凡我 國民 均應 一體 遵守 法律 維護 國體 此 佈

新加坡 總領事 閣下 敬啟者 茲因 國民政府 成立 凡我 國民 均應 一體 遵守 法律 維護 國體 此 佈

知照 凡我 國民 均應 一體 遵守 法律 維護 國體 此 佈

者 閣下 敬啟者 茲因 國民政府 成立 凡我 國民 均應 一體 遵守 法律 維護 國體 此 佈

28 20 45

1467







行  
動

紙 郵 案 起

大正二年九月十一日

日起案  
起案者  
藤田

九月十一日

日發付  
發付掛  
藤田

發付後起  
案者除印

(主務)

軍務局長のまじり  
局員



大臣 **佐々木**

副官



次官



參事官

軍令部長

次長

第一班



軍令	水路	臨建	教育	糧政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
13/9											受月日
											發月日

大正二年九月十一日  
 軍務局長のまじり  
 局員  
 佐々木

1471



軍務局

No. 609

大正二年九月十二日 午後五時十分

佐世得局發

發信者 第二艦隊司令長官

受信者 海軍次官

電報譯

昨夜迄ニテ五駆逐隊ノ出動準備完成  
令中ヲ待タシム水雷戰隊(五駆逐隊欠)ハ  
十四日ヨリ吊定ノ巡艦ヲ實施セシメ  
差支ナキヤ御内立息義知之タシ



海軍

1473

兼用

大正二年十月一日

日起案  
起案者  
藤田

十月二日

日發付  
發付掛  
藤田

發付後起  
案者除印

(主務)

軍務局長

局員

藤田

田原

大臣

次官

參事官

副官

經理局長

勝

政本部長

和

會計課

第二部長

三

服部

軍令部長

次長

電

第一班

秋

關

關

關

軍令	水路	陸建	教育	鑑政	司法	經理	醫務	大事	軍務	官房	局部	受月日	發月日
1/16						勝							

大正二年十月一日  
 皇山坊七号三九二  
 伊吹出部  
 行部  
 品  
 送





軍務局

吳鎮守府 第七號 三一九二

大正二年九月廿九日

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎

海軍大臣 齋藤實毅

請

英二豫備艦出動件

軍艦伊吹公武運轉施行差迫り候處  
回艦先般異種原基羅鐵儀換装  
付自差修正、為來十月三日廣島灣に出  
動即日帰港、義電敷御允許相成度  
右具申す

書房第二六一三  
要スル行動豫算並航海加俸

海軍

等總令示豫算額内支辨事致  
度此旨勅申ス

〆

（海軍は一納）

1477

電 報 着 信 紙

局 着		局 發		名氏所居人信受	
取 受 者	付 受 午 後 前 三 時 分	付 受 午 後 二 時 分	第 一 一 號	局	報
電 報 局 着 信 紙	三 五 五 字	十 月 二 日	電 報 局	電 報 局	電 報 局
定 指			ウ チ		
番 着 信 號		數 紙		名氏所居人信受	
一 の		第 八 號		ウ カ	
事 記			印附日信着		
二十九日突録七時一十九分 吹出節上申至急電報は 急務はありと云う 三コウ ンキヨヲトリハカラスヒ ウデ ンポウハカラスヒ ドウゼ ンポウハカラスヒ 一ノニイブキモツ ニヒゴ ンセノ三					

電報局着信紙

大正三年十月二日

電報局

1478

行動

大正三年十月

名古屋呉鏡川友友

十月

書別友

行動公報：物教書一件

藤田

右：閣下九月二十九日附吳鎮井一回六七號より

中：閣下九月二十九日附吳鎮井一回六七號より

官房外三三二一號書意：其基平約一月内

海内内閣取返

七月第二十五九號二

十月二日

特

軍

2. 10. 1

1479

況ニシ場合ノ一般公報トシ其時々決定致ル  
後必ガニテ何等取扱上變更致シ殊ニ其  
右扱ハ承知ヲ要ス

右田長人

近テ海軍者一般公報ヲ付裁セシム條也

以外  
他部ニテ

海軍者公報ノ取扱ヲ其ノ因社ニシテ  
五海軍者公報ノ條ヲ知シテ其表ニシテ  
其表ニシテ其表ニシテ其表ニシテ  
其表ニシテ其表ニシテ其表ニシテ

花  
田

吳鎮第一四六七號

大正二年九月二十九日

名古屋吳鎮守府 副官

森山海軍省 副官 殿

船隊行動公報：揚載方、付

本は：開去ル明治四十年八月官房英三二一號

ヲ以テ處理方御申越シ、次免モ有之南來部外

秘トシテ公報ニ揚載致米候處近來貴省：於テ

ハ一般公報ニ揚載セラル、攝被存候右、其後御取扱

海軍省 第一四六七號





大正二年十月廿四日起案  
起案者 藤田

十月二十五日發付  
發付掛 藤田

木村  
發付後起  
案者除印

(主務)

軍務局長

局員

藤田

大臣

副官

次官

參事官

經理局長

艦政本部長

第二部

會計課

軍令部長

次長

第一班

第三班

大正二年十月二十五日

海軍大臣

佐鎮長官

最上五日以内定敷港外出動ノ件奉支下認許ス但

局部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	教育	臨建	水路	軍令
受月日											
發月日											

行動需要及航海の條々  
既知除年内に於て支辨ス  
以備し心得人

五

海軍省  
政本部  
印

軍務局

大正二年十月二十二日午後三時五分  
大正二年十月二十一日午後五時十分  
佐世保局發  
省局着

受信者 海軍大臣  
發信者 佐鎮長官

局員 電報譯

却内意ニ據リ 天長節祝日ニ最上ヲ長崎ニ在  
泊セシムル豫定ノ所同種ハイタルビシ  
後ノ武運轉ヲ要スルニ付其ノ日數ヲ合セ五日以  
内定繫港外ニ出勤方却認許ヲ乞フ

3

海軍

(花崎納)

1485